

各小中学校の耐震化状況

平成28年4月1日現在

学校名	建物区分	校舎名	建設年度	耐震基準	現Is値	備 考
精北小学校	校舎	北校舎	昭和52年度	旧耐震	1.01	平成12年度耐震補強済 (補強前のIs値0.31)
	校舎	南校舎	昭和52年度	旧耐震	1.06	平成12年度耐震補強済 (補強前のIs値0.52)
	校舎	新校舎	昭和63年度	新耐震	—	
	屋体	屋内運動場	昭和52年度	旧耐震	1.92	平成21年度耐震補強済 (補強前のIs値0.13)
川西小学校	屋体	屋内運動場	昭和57年度	新耐震	0.94	屋根がPC版のため耐震診断を実施。平成21年度耐震補強済 (補強前のIs値0.34)
	校舎	新校舎	平成21年度	新耐震	—	
山田荘小学校	校舎	北校舎	平成9年度	新耐震	—	
	校舎	昇降口	平成9年度	新耐震	—	
	校舎	中校舎	昭和60年度	新耐震	—	
	校舎	南校舎	昭和60年度	新耐震	—	
	屋体	屋内運動場	昭和60年度	新耐震	0.71	屋根がPC版のため耐震診断を実施。平成25年度耐震補強済 (補強前のIs値0.41)
東光小学校	校舎	管理棟	平成4年度	新耐震	—	
	校舎	特別教室棟	平成4年度	新耐震	—	
	校舎	普通教室棟	平成4年度	新耐震	—	
	校舎	普通教室棟	平成16年度	新耐震	—	
	屋体	屋内運動場	平成4年度	新耐震	—	
精華台小学校	校舎	西校舎	平成12年度	新耐震	—	
	校舎	中校舎	平成12年度	新耐震	—	
	校舎	南校舎	平成12年度	新耐震	—	
	校舎	東校舎	平成12年度	新耐震	—	
	校舎	北校舎	平成12年度	新耐震	—	
	校舎	新東校舎	平成15年度	新耐震	—	普通教室8教室等増築
	校舎	新館	平成20年度	新耐震	—	特別支援教室2教室増築
	屋体	屋内運動場	平成12年度	新耐震	—	

学校名	建物区分	校舎名	建設年度	耐震基準	現Is値	備 考
精華中学校	校舎	新校舎	平成27年度	新耐震	—	
	屋体	屋内運動場	昭和53年度	旧耐震	0.91	平成19年度耐震補強済（補強前のIs値0.296）
精華南中学校	校舎	南校舎	昭和63年度	新耐震	—	
	校舎	中校舎	昭和63年度	新耐震	—	
	校舎	北校舎	昭和63年度	新耐震	—	
	屋体	屋内運動場	昭和63年度	新耐震	—	平成25年度非構造部材の耐震化済（天井撤去等）
精華西中学校	校舎	南校舎	平成8年度	新耐震	—	
	校舎	北校舎	平成8年度	新耐震	—	
	校舎	東校舎	平成8年度	新耐震	—	
	校舎	西校舎	平成8年度	新耐震	—	
	校舎	音楽棟	平成8年度	新耐震	—	
	校舎	新南校舎	平成17年度	新耐震	—	普通教室6教室増築
	校舎	新北校舎	平成22年度	新耐震	—	普通教室4教室、特別教室1教室増築
	屋体	屋内運動場	平成8年度	新耐震	—	

耐震診断について

文部科学省が阪神・淡路大震災後、平成6、7年度に「文教施設の耐震性能等に関する調査研究」において行った文教施設の被災度調査の結果によると、比較的大きな被害を受けた施設では、新耐震基準施行（昭和56年6月1日）以前に建築された建物の損傷割合が大きく、その中でもとりわけ旧耐震基準施行（昭和46年1月1日）以前に建築された建物については大きな被害を被っています。逆に、新耐震基準施行後の建物については、さほど大きな被害が出なかったことが分かっています。そのため、耐震診断実施は、新耐震基準施行以前の建物対象となります。なお、特別な理由等で耐震性能が劣ると考えられる建物については、耐震診断対象建物となります。

Is値（構造耐震指標）とは

①建物の強度、②建物形状、③経年劣化の要因から決まる建物の耐震性能を表す指標です。

Is値に係る指標について

$I_s < 0.3$	地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い
$0.3 \leq I_s < 0.7$	地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある
$0.7 \leq I_s$	地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い